

津和野乙女峠まつり 広島教区 90 周年

前田司教、乙女峠を広島教区公式巡礼所に宣言

5月3日、五月晴れの好天に恵まれた津和野の町は、北は札幌、南は那覇とほぼ日本全土から集まった巡礼者で、溢れかえりました。正確な人数はカウントできませんが、おそらく2,000人は優に超えていたでしょう。来賓として津和野町長、島根県会議員など4名が臨席され、乙女峠まつりに期待する町側の意気込みが伝わってきます。

今年の乙女峠まつりは、多くの意向が込められていました。信仰年の今年、広島教区は創立90周年を向かえ、ミサの中で、津和野乙女峠公式巡礼所宣言が、前田司教より出されました。これにより津和野殉教者の列福運動が正式に始まります。共同祈願の中で、「津和野の殉教者の列福を求める祈り」を巡礼者一同、心をひとつにして捧げました。

三つのマリア像が巡礼行列

今年は、津和野乙女峠のマリア像に加え、世界的に知られている浦上教会の被爆マリア像が巡礼行列をしました。初めて目にした人も多かったでしょう。もう一つはヨーロッパから韓国へ、韓国から岡山県玉野教会へ渡ってきたファチマのマリア像です。

駐日バチカン大使乙女峠殉教祭に

バチカン大使ジョセフ・チェノットゥ大司教が参列し、ミサの中で、流暢な日本語で挨拶をされ、拍手喝采を浴びました。

若葉萌え乙女峠はミサの中 前田万葉司教



挨拶をされる前田司教 右は津和野町関係者 左は駐日バチカン大使と津和野教会主任司祭ピタリ神父



津和野乙女峠のマリア像 萩光塩学院の女生徒たちが担いでいる



ヨーロッパから韓国へ、韓国から岡山玉野教会へ、そして津和野を巡礼したファチマのマリア像



世界的に有名になった浦上教会の被爆マリア像 浦上の少年たちによって運ばれる



駐日バチカン大使 ジョセフ・チェノットゥ大司教の「ご清聴ありがとうございました」に拍手喝采